

象牙取引の禁止について

ヤフー株式会社

2019年11月1日より、ヤフーのeコマースサービス（※）において、全象牙製品の取引を禁止 （同年8月28日プレスリリース）



ヤフー株式会社は、これまで種の保存法に照らして国内で適法な象牙取引の機会を提供してきました。しかし、ネットオークションサービス「ヤフオク!」を通じて、国内にて取引された象牙が、その後外国へ違法に持ち去られ、外国の税関で摘発される事件が複数例報告されたことを確認しました。本件を深刻に捉え、また象牙取引を巡る国際情勢に鑑み、環境団体からの助言も踏まえ慎重に検討を重ねた結果、2019年11月1日より、ヤフーのeコマースサービスにおいて、全象牙製品の取引の禁止を決定しました。

<WWFジャパン事務局長 簡井隆司氏のコメント>

「WWFジャパンは、TRAFFICとともに、象牙の取扱いについてヤフー株式会社と意見交換をして参りました。今回の決断は、日本における野生生物の違法取引の課題解決のために前進となるものです。国際的に象牙取引の政策強化が進む中、同社が取引継続のリスクを十分に考慮し、自主的に取引停止の判断を下したことを歓迎します」

<WWF (World Wide Fund for Nature) について>

1961年にスイスで設立された地球環境保全団体です。人と自然が調和して生きられる未来を築くため、現在100カ国以上で、希少な野生生物の保護や、森や海などの自然環境の保全、自然資源の持続可能な利用、地球温暖化の防止などを旨としたプロジェクトを展開しています。

・ [WWF](#) (外部リンク)

▼ヤフオク!ガイドライン細則 B.出品禁止物

9. 動植物およびその器官のうち、以下に該当するもの

(1) 動物の生体のうち、以下に該当するもの

- a ほにゅう類
- b 鳥類
- c はちゅう類

(2) 特定外来生物に該当する動物の生体および植物（卵や種子も含みます）

(3) 象牙および象牙製品全般（全形牙、カットピース、端材、印材、製品の一部に象牙が用いられているものなどを含みます）

(4) 希少野生動植物種の個体等のうち、種の保存法に基づいて必要とされている登録等がないもの

▶ [ご注意ください](#)

▶ [出品ルールを確認する](#)

▶ [関係法令を確認する](#)

※ヤフオク!、Yahoo!ショッピング（その後にサービス開始したPayPayフリマ、PayPayモールでも同様に出品禁止）

主な削除実績

	2019年度 (2019年11月以降)	2020年度	2021年度
ヤフオク! (CtoC)	約2,400件	約1,500件	約1,400件
Yahoo!ショッピング (BtoC)	約370件	約40件	約100件

▼削除対象

- 全形牙
- カットピース、端材
- 印材等製品の一部に象牙が利用されているもの

▼チェック方法

- 専門部隊による24時間365日のパトロール
- 外部指摘（ユーザー、環境保護団体、各省庁等）

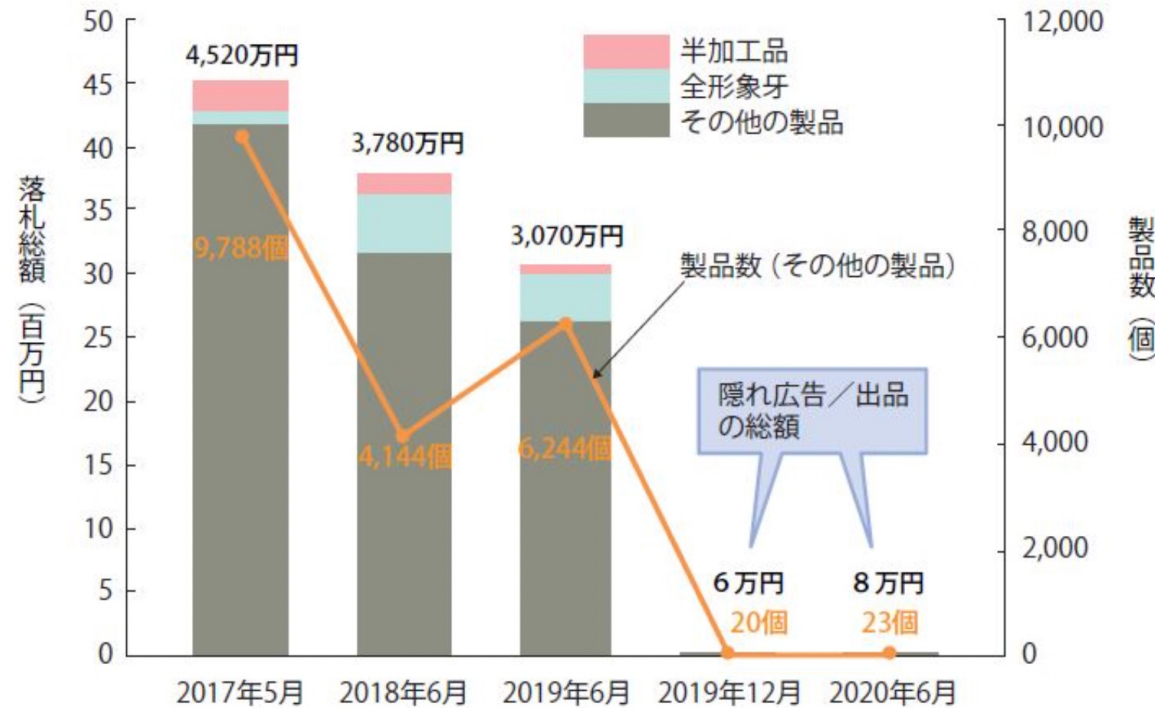
※常時出品規模

ヤフオク! : 約7630万件

Yahoo!ショッピング : 約3億商品

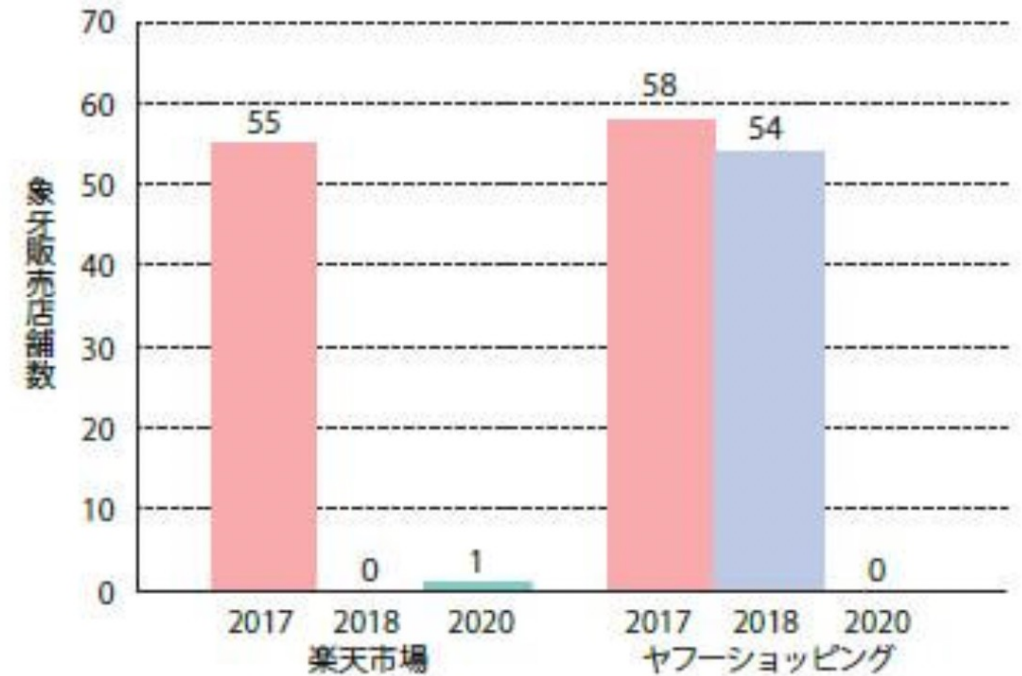
参考：ヤフオク!、Yahoo!ショッピングの象牙取引量の動向（TRAFFICレポート）

▼ヤフオク!



ヤフオク!における2017年～2020年の各4週間の調査期間中の象牙製品落札総額と製品数の推移オレンジ折れ線は、全形象牙と半加工品を除いた落札製品数の総数。調査期間：2017年5月8日～6月4日、2018年6月3日～6月30日、2019年6月3日～6月30日および12月3日～12月30日、2020年6月3日～6月30日※隠れ広告＝該当製品（本調査では象牙）ではないと謳っている出品、または明示されていない出品。これらの出品では、暗号や隠語などを用いて、該当品とほのめかしている場合がある

▼Yahoo!ショッピング



2017年5月、2018年6月、2020年7月の調査時における象牙販売広告を確認した店舗数
※象牙取引禁止前の調査での検索キーワードは「本象牙」（楽天市場2017年、ヤフーショッピング2017年、2018年）、禁止後は「象牙」
※楽天市場で確認された1店舗については、サイトの通報システムを通じて報告したところ、後に該当の広告が削除されていることが確認されている

（引用：TRAFFICレポート「TEETERING ON THE BRINK：日本のオンライン象牙取引」より）

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4490.html>

appendix

ヤフオク!における啓発

象牙製品が出品されやすい印鑑等のカテゴリを選択すると、以下ポップアップが表示される

The screenshot shows a three-step registration process: 商品情報入力 (Product Information Input), 入力内容確認 (Input Content Confirmation), and 完了 (Completed). The first step is active. A modal popup is displayed with a warning icon and the text: 「2019年11月1日より、全形象牙および象牙製品（印材、端材、製品の一部に象牙が用いられているものなどを含みます）は出品禁止になりました。」 Below this, it says: 「このたびの変更に至った経緯につきましては、[こちら](#)をご確認ください。」 At the bottom of the popup are buttons for 「キャンセル」 (Cancel) and 「OK」. The background interface includes a sidebar with 「下書き1件」 (1 Draft), 「商品の情報」 (Product Information), and an image upload area labeled 「画像」 (Image) with a dashed border and the text 「10枚まで」 (Up to 10 images). A footer note states: 「※画像の登録ができない場合は、[画像・編集登録画面](#)をご利用ください。」 (If you cannot register an image, please use the [Image/Editing Registration Screen](#).)